

意見文を書く力を高める国語科学習
～国語用語という視点での教材文の読み取りと、
プログラミング的思考を用いたアルゴリズムの作成を通して～

三条市立大崎学園
齋藤 光輔（平成 22 年度）

小学校国語科「書くこと」の指導において、教材文を国語用語という視点での読み取りをさせ、意見文の完成をゴールにしたアルゴリズムの作成をし、意見文の書き方の型を示した下書き用ワークシートの活用させることで、児童全員が意見文を書くことができるだろう。

1 研究主題設定の理由

『小学校プログラミング教育の手引（第三版）』には、次のような記述がある。

コンピュータを理解し上手に活用していく力を身に付けることは、あらゆる活動においてコンピュータ等を活用することが求められるこれからの社会を生きていく子供たちにとって、将来どのような職業に就くとしても、極めて重要なこととなっています。諸外国においても、初等教育の段階からプログラミング教育を導入する動きが見られます。こうしたことから、このたびの学習指導要領改訂において、小・中・高等学校を通じてプログラミング教育を充実することとし、2020 年度から小学校においてもプログラミング教育を導入することとなりました。

プログラミング教育を行うことは、世界的な流れである。

さて、令和元年度（=2019）は五年生を担当していた。主に「ビスケット」「プログラミン」「コードモンキー」「アルゴロジック」「Hour of Code」「プログル」「Scratch」などのビジュアルプログラミングを用いて、算数、図工、総合などの教科で、プログラミング的思考を育んできた。



そこで、彼らを持ち上がりで担任した令和二年度（=2020）では、アンプラグドプログラミング（パソコンを使わないプログラミング）でも、プログラミング的思考を育みたいと考え、国語科において本実践を行った。

研究仮説：

小学校国語科「書くこと」の指導において、教材文を国語用語という視点での読み取りをさせ、意見文の完成をゴールにしたアルゴリズムの作成をし、意見文の書き方の型を示した下書き用ワークシートの活用させることで、児童全員が意見文を書くことができるだろう。

2 研究の実際

- ・ 単元名 世界に目を向けて意見文を書こう（東京書籍 P158～P165）
- ・ 学年 第6学年2組
- ・ 日時 令和2年10月～11月



・ 研究内容

手立て1：教材例の国語用語という視点での読み取り

教科書に例示してある教材文を形式段落ごとに、国語の用語という視点で読み取らせた。児童からは、双括型の文章であり序論と結論に主張が述べられていることや、資料からわかること（事実）と自分の考え（意見）が分けて書かれていることなどの意見が挙げられた。他にも国語の用語として、呼びかけ、主張、双括型、原因と結果、資料、事実、意見などを見付けることができた。

手立て2：意見文の完成をゴールにしたアルゴリズムの作成

手立て1で読み取った用語を、どのような順で書いていけばよいかを、クラス全体で考えた。児童からは、「序論と結論は、似ているので、いっぺんに書く」「資料の選択は二回繰り返す」などの意見が出た。児童の意見をもとに、クラス全体でアルゴリズムを作成した。児童はその手順通りに意見文を書き進めた。アルゴリズムは、4ページ目に示す。

手立て3：意見文の書き方の型を示した下書き用ワークシートの活用

書くことそのものに抵抗がある児童のために、型を示したワークシートを作成した。空欄に当てはめていけば、意見文が完成するようになっている。このシートを全部活用するか、一部活用するか、または全く活用しないかは、児童が自分で決めた。なお、清書は、ノート、ワークシート、Wordのどれかを選択させた。

3 結論

①序論に主張があること、②結論に主張があること、③本論に「事実と意見」があることは、全員が達成できた。

ただし、敬体と常体が混在している、第4段落が欠如している、資料を一つしか選択していないなどの不備も見られた。

以下、児童アンケート「手立て1～3は、意見文を書くのに役立ったか」より抜粋。

<p>手立て1【教材例の国語用語という視点での読み取り】</p> <p>→◎12人○10人△3人×0人肯定的評価88%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見文を書くときに、どんなことを書けばいいのか、教科書の参考を見るだけではイメージがわからなかったけど、全員で読んで探してみると、いろいろあったので、書くのに参考になってよかった。 ・何も考えないで教材文を読んだら、見落としそうなので、良かったと思います。 ・「問いかけ」「意見」「事実」などを入れることによって、読み手に分かってもらえるようにすることで、いい参考になりました。
<p>手立て2【意見文の完成をゴールにしたアルゴリズムの作成】</p> <p>→◎17人○6人△2人×0人肯定的評価92%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じようなところ（1・5）という風に進めていたから、分かりやすかったし、書きやすかった。 ・自分が分からないときに、アルゴリズムをみて、こうするんだなあ〜と役に立った。 ・双括型なので、どこが一番大切かというところが最低二つはあったので、どこから始めていいかわからなかったのが、役立ちました。
<p>手立て3【意見文の書き方の型を示した下書き用ワークシートの活用】</p> <p>→◎23人○2人△0人×0人肯定的評価100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初から言葉が書いてあって、「もし」とか「たとえば」とか書いてあって、面倒じゃなかった。 ・土台になるようなものがないとわかりづらくて、うまく書けるか不安だったけど、下書きがあるのととてもうまく書けてよかった。（なかったら書けなかったと思う・・・） ・文が書いてあって、「次はどのことを書いたらいいのかな」って思ってしまうから、「例えば〜」とか、「もし〜」とかがあったので、書きやすかったです。

4 研究の反省、今後の課題

	手立て1 教材例を国語用語という 視点での読み取り	手立て2 意見文の完成をゴールに したアルゴリズムの作成	手立て3 意見文の書き方の型を示 した下書き用ワークシー トの活用
◎ 成 果	教材文を分析させることで、アルゴリズムを作成するときの「素材」を見つけさせることができた。	流れに沿って書いていけば、完成することができるので、全員が意見文を作成することができた。	事前に文頭を示しておくことで、その後の文章を円滑に書かせることができた。
△ 課 題	国語の用語が身につけていない児童には、国語の用語の読み取りは難しかった。単元の学習の前に事前に十分に理解させる必要がある。	数が多くて大変だという感想が見られた。メインの流れ1つと、段落ごとの流れ5つ、合計6つにしても良いと考えた。	毎時間下書きのシートを用意することは難しい。「まず」「次に」「序」「本」「結」などキーワードのみを示したものを黒板に掲示してもよいと考えた。

今後も、いろいろな教科において、プログラミング教育を行っていきたい。

意見文の完成をゴールにしたアルゴリズム (6年2組のみんなで作りました)

【スタート】

↓

全 体：序論、本論、結論（双括型）

全 体：形式段落は5つ

全 体：常体 か 敬体（～だ、～である）

全 体：句点（。）と読点（、）を活用する

題 名：主張「～しよう」または課題提示「～か」

↓

①段落：問いかけ（例、みなさんは～か。）

①段落：フェアトレードの定義

①段落：主張（～してほしい）

↓

⑤段落：主張（①の主張を改めて強調）

⑤段落：呼びかけ（例、みなさん～しよう）

↓

②段落：原因と結果（原因は～だ。結果は～だ。因果関係）

②段落：仮説（もし～なら、～はずだ）

↓

③段落：フェアトレードに関する意見

↓

繰り返し（2～3回）

③段落：資料の選択

③段落：資料の説明

③段落：資料からわかる事実（～が分かる）※単位、数字を正確に書く

③段落：資料Aと資料Bから言えること(二つの資料から～と考える)

↓

④段落：問いと答え

④段落：具体的な提案

↓

全 体：序論、本論、結論

全 体：形式段落は5つ

全 体：常体 か 敬体（～だ、～である）

全 体：句点（。）と読点（、）を活用する

↓

3人以上の友達に読んでもらう

清書（原稿用紙 または 国語ノート または WORD）

お家に持ち帰り、家の人に読んでいただく

↓

【ゴール】